

政務活動費調査研究報告書

会派名 新生・市民クラブ

氏名 大塚 正 俊

日 程	令和元年 10 月 30 日（水）午後 1 時～31 日（木）午前 11 時
場 所	高知県高知市高知ちばさんセンター
相 手 方	全国市議会議長会
参加議員 氏 名	吉村 尚久、大塚 正俊、千木良 孝之、須賀 要子
目 的	全国市議会議長会研修フォーラムに参加し、基調講演やパネルディスカッション、課題討議を踏まえて議会活性化のための船中八策を探る。
内 容	<p>1. 基調講演</p> <p>東京工業大学リベラルアーツ研究教育院の中島岳志教授から「現代政治のマトリックス～リベラル保守という可能性」と題してご講演を頂きました。</p> <p>本来、「リベラル」対「保守」という見方は政治思想的におかしく、左翼はリベラルではなく、基本的に保守がリベラルだと。</p> <p>17 世紀の三十年戦争を通じて、「全く違う考えを持っていてもその考え方を認めて合意形成していこう」という考え方が欧州で生まれた。</p> <p>リベラルとは本来、寛容という意味であるが、その観念が今の保守に欠けてきており、敵味方に分かれてしまった。</p> <p>英国の政治思想家であるエドモンド・バークがフランス革命に反対したのが始まりである。バークが何に反対して何を考えたかは保守を考える上で重要となる。彼は、理性万能主義を疑った。「理性に合致したことを徹底的に行っていけば良い社会をつくれる」という進歩主義や設計主義は、人間観としておかしいと指摘。</p> <p>不十分な人間が社会でやっていくためにはどうすればいいか。</p> <p>「人間の不完全性を認識しつつ、常識に従いながら世の中は変わっていくものである」とご教示いただきました</p> <p>2. パネルディスカッション</p> <p>朝日新聞論説委員の坪井ゆづるさんをコーディネーターとして、4 名のパネリストによる「議会活性化のための船中八策」についてパネルディスカッションが行われました。</p>

坪井さんより、議会は地方政治、自治の主役である。予算や事業の採否などの最終決定権を握っているのは議会であり、地域の未来を左右する重大な使命を担っている。当然、その分責任は重い。すべての議決にあたって、公明正大で説明可能な判断を求められている。

議会基本条例をはじめ幾多の成果を残し、住民との距離を縮め、明らかに進化を遂げた議会もあるが、全議員が胸を張って改革の成果を語れるであろうか。

いま世論は厳しい。「いまだに『自治の主役』の自覚に欠ける議員が存在している」という「議会不信」が根強くあるのは否定しがたい事実であると。

市町村職員中央研究所学長の高部さんより、自治体議会に対して指摘される問題点として、①投票率の低下（⇨議会への無関心）、②無投票当選の増加（⇨議員のなり手不足）、③議員構成の偏り（⇨女性、若者の参加）、④政治活動費の不正使用等（⇨議員の不祥事等）がある。議会基本条例を制定して満足している議会もあるが、条例は改革の出発点で、議会運営や議員の日常活動の在り方を模索していく必要があると。

㈱コラボラ代表取締役横田さんより、そもそも議会に必要なことは、①20年後の住民は幸せですか？、②やりっぱなしになっていませんか？数字（EBPM）とともにPDCAは？、③若手、女性の参加は？巻き込んで街を活性化する策は？であると。議会改革の具合的なアイデアとして、①中長期視点で街の目指す方向を議論、人口減を前提に！、②ガチンコ会議を多様な人材で実施、③経験の機会提供（中長期戦略を検討する機会、住民参加の事業仕分け、参考人制度）であると。

3. 課題討議

朝日新聞論説委員の坪井ゆづるさんをコーディネーターとして、3名の議員による「議会活性化のための船中八策」について課題討議が行われました。

上越市議会の滝沢議員より、市議を目指しやすい環境整備への提言や見える議会、魅せる議会（住民協働力、行政との対峙力、立法力、情報収集発信力の揃った議会）の取り組みについて報告されました。

鎌倉市議会久坂議長より「女性議員の現状の視点」、周南市議会小林議長より「議会改革の取り組み」について報告が行われました。

<p>成 果</p>	<p>中島岳志教授のから、「時代に応じて徐々に対話しながら変えていくという穏健的な漸進主義が保守の本来持つ重要な役割であり、保守、革新政治家のそれぞれの目指すべき方向性など参考になる考察について学ぶことができました。</p> <p>今の中津市議会では、国会の与党対野党の構図による議会運営が進められており、敵味方に分かれてしまっています。市議会内にある「保守の会」には寛容という観念が欠けてきており、議員は「中津市民党」の立場で、議会運営を進めていく必要があります。</p> <p>コーディネーターの坪井さんの「予算や事業の採否などの最終決定権を握っているのは議会であり、地域の未来を左右する重大な使命を担っている。当然、その分責任は重い。すべての議決にあたって、公明正大で説明可能な判断を求められている。」との発言が胸に刺さりました。議員の使命を果たすべく、日々切磋琢磨してその責任を全うしていきたいと決意を新たにしました。</p> <p>上越市議会の「議会モニター制度（アンケートモニター500人、コアモニター30人）」の取り組みは、議会改革につながっていくと感じました。第3者の意見を議会改革に反映していかないと手前味噌の改革で満足してしまいます。停滞している中津市の議会改革を推進していくため、是非この制度の導入を求めていきたいと考えています。</p> <p>周南市議会の「決算審査における議会が行う行政評価の取り組み」について、中津市では行政評価すらできていない状況にあり、具体的な目標数値に対して実績がどうあったのか、費用対効果等の指標がない中で、議会での決算審査を行っています。決算審査を次年度の予算や執行に活かしていくため、執行部に対して行政評価の実施を求めていきたいと考えています。</p>
------------	--